

会社概要

社名	株式会社ローソン
所在地	東京都品川区大崎一丁目11番2号 ゲートシティ大崎 イーストタワー
代表者	代表取締役 社長 竹増 貞信
設立	1975年4月15日

資本金	585億664万4千円
社員数	10,362人(連結)
事業内容	コンビニエンスストア「ローソン」の フランチャイズチェーン展開
全店舗売上高	2兆4,427億円(連結)

2022年2月末時点

LAWSON



ローソンは持続可能な
開発目標(SDGs)を
支援しています

店舗展開エリア 総店舗数(国内外合計)※19,518店舗

2022年2月末時点

国内店舗数 14,656店舗

北海道地方 675店舗	関東・甲信越地方 5,247店舗	中部地方 1,700店舗	近畿地方 2,647店舗	中国地方 936店舗	九州・沖縄地方 1,658店舗	海外 4,862店舗
東北地方 1,176店舗	栃木 197 群馬 244 埼玉 692 千葉 600 茨城 217 東京 1,683 神奈川 1,077 新潟 226 山梨 137 長野 174	石川 103 富山 181 福井 107 静岡 275 愛知 717 岐阜 181 三重 136	京都 329 滋賀 154 奈良 138 和歌山 153 大阪 1,175 兵庫 698	岡山 235 広島 297 山口 127 鳥取 136 島根 141	福岡 529 佐賀 75 長崎 125 大分 197 熊本 161 宮崎 109 鹿児島 202 沖縄 260	中国 4,560 タイ 166 インドネシア 65 フィリピン 69 米ハワイ州 2
青森 279 秋田 182 岩手 178 宮城 255 山形 112 福島 170						
				四国地方 617店舗		
				香川 132 愛媛 212 徳島 135 高知 138		

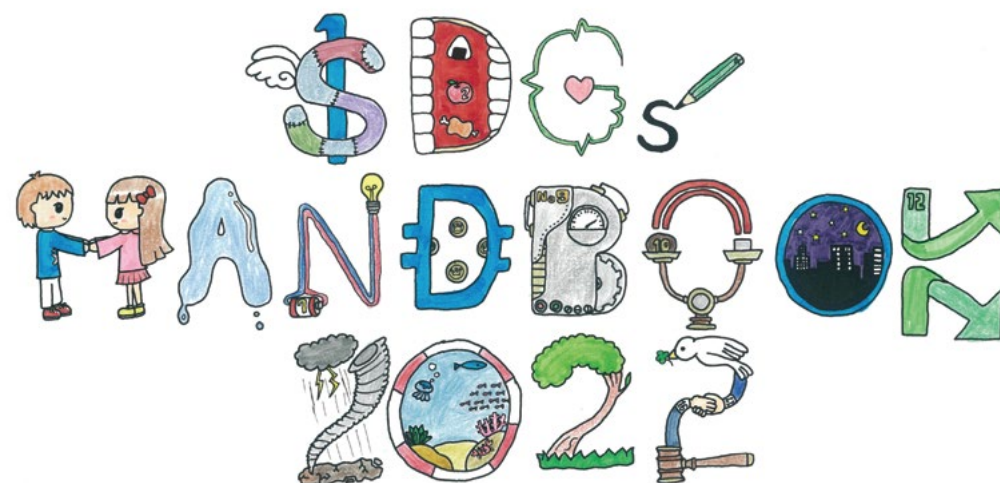
※ 総店舗数は、当社連結グループの運営するコンビニエンスストアの店舗数であり、(株)ローソンストア100、(株)ローソン高知、(株)ローソン南九州、(株)ローソン沖縄の運営する店舗数を含めております。また、海外店舗数は、各地域の運営会社によるローソンブランド店舗数です。
ローソングループのコンビニエンスストア店舗=ローソン、ナチュラルローソン、ローソンストア100

グループ企業情報

2022年2月末時点

分野	会社名	分野	会社名
国内コンビニエンスストア事業	(株)ローソン	海外事業	羅森(中国)投資有限公司
	(株)ローソンストア100		上海羅森便利有限公司
	(株)SCI		上海樂松商貿有限公司
	(株)ローソンアーバンワークス		上海恭匯貿易有限公司
	(株)ローソン沖縄		浙江羅森百貨有限公司
(株)ローソン南九州	重慶羅森便利店有限公司		
(株)ローソン高知	大連羅森便利店有限公司		
エンタテインメント関連事業	(株)ローソンエンタテインメント		羅森(北京)有限公司
	ローソンHMVエンタテインメント・ユナイテッド・シネマ・ホールディングス(株)		北京羅松商貿有限公司
	ユナイテッド・エンターテインメント・ホールディングス(株)		Saha Lawson Co., Ltd.
金融関連事業	(株)ローソン銀行	成城石井事業	(株)成城石井
		コンサルティング事業	(株)バストプラクティス

表紙について
本冊子の表紙は福祉施設PICFA(ピクファ)に在籍する障がいのあるアーティストが描いたデザインを採用しています。それぞれの文字がSDGs17の目標を表わし、文字の中には目標番号が隠されています。



LAWSON SDGs HANDBOOK 2022

株式会社ローソン

SDGs推進室

〒141-8643

東京都品川区大崎一丁目11番2号

ゲートシティ大崎 イーストタワー

<https://www.lawson.co.jp/>

2022年8月発行 次回発行2023年8月予定

© 1975-2022 Lawson, Inc. All rights reserved.



グループ理念

私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。

ビジョン

目指すは、マチの“ほっと”ステーション。

ローソンWAY

「ローソンWAY」は、私たちの果たす役割を明確にし、使命感及び責任感をもってグループ理念を実現するために制定した5つの行動指針です。

1. マチ一番の笑顔あふれるお店をつくろう。
2. アイデアを声に出して、行動しよう。
3. チャレンジを、楽しもう。
4. 仲間を想い、ひとつになろう。
5. 誠実でいよう。

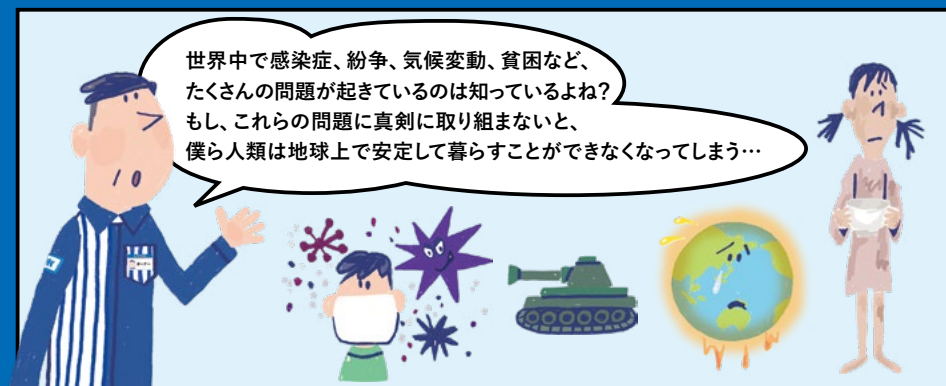
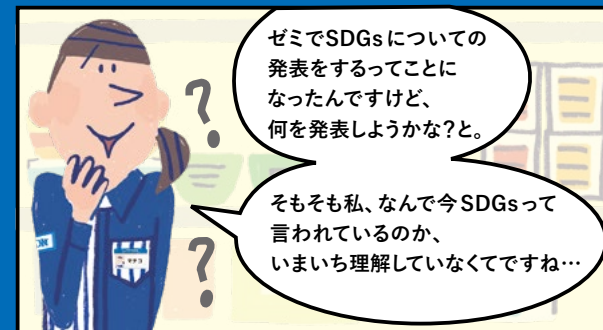


マンガでわかる！ ローソンとSDGs



オーナー
ローソン歴20年の大ベテラン。
物知りでいろいろと頼られる。

マチコ
大学生でローソンクルー。
物知りなオーナーを
何かと頼りにしている。





1個当たりのたんぱく質量2.8g、糖質量1.6g* ※レギュラーの場合
⇒ 健康への配慮

国産若鶏の胸肉・国産小麦粉100%使用*
※小麦粉製造時に同一ラインで外国産小麦を使用しており、混入の可能性があります。
⇒ 輸送にかかるCO₂排出量の削減

地域の原材料を使用し、ご当地からあげクンを販売
⇒ 地産地消など地域貢献

フライヤーで使用した食用油は家畜のエサや石けんにリサイクル
⇒ 廃棄物の削減

国内の工場徹底した品質管理のもと製造
⇒ 安全・安心

国産の材料を使って、健康にもやさしいからあげクンには、2、3、12、13番のゴールに貢献する取り組みが詰まっているんだ!

すごい! からあげクンだけでこんなにも取り組みが!

からあげクンだけじゃないよ。ローソンは「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」というグループ理念を実現する一環として、SDGsに力を入れているんだ!

募金

健康

省エネ10か条

“マチの幸せ”募金

店内での医薬品の販売

冷蔵ケースのフィルター清掃

なんだか私、ローソンのSDGsの取り組みに興味が高まりました!

いいね!じゃあ、ローソンの取り組みをもっと見ていこうか!

あなたのSDGsアクション教えてください!

カウンターで販売しているFF(揚げ物)の新商品はお客さまからの評価が高く、揚げたてのおいしい状態の商品をおすすめしています。FFは早めに消費期限を迎えてしまうので、作ったからにはおいしい状態で売り切るようがんばっています。



大澤さん

食品ロス削減のために販売期限が近い商品に割引シールを貼っています。購入していただいたお客さまには精いっぱい笑顔で感謝を伝え、この商品を買ってよかったとプラスに思っているようにしています。



津田さん

プラスチック製のスプーン、フォークなどは必ずいねいにお客さまに必要かどうか確認しています。その中でマイ箸を持つようになったお客さまも出ており、日ごろの声かけの効果を実感しています。



スコットさん

クルーからスタートし、現在店長をしています。日本以外の国籍のクルーが半分以上在籍しています。彼らの文化や多様性を理解し、常に尊重することを心がけています。それが働きがいにもつながり、みんなが笑顔で楽しく働いています。



ズイさん



一人ひとりが率先してアクションを起こし、 「新・マチのほっとステーション」への 進化にチャレンジします

代表取締役 社長兼 CSO* 竹増 貞信

皆さん、こんにちは。

2年以上続く新型コロナウイルス感染症によりお客さまの行動様式が変わり、コンビニエンスストアを日常使いされる傾向がますます強まりました。お客さまの日常生活に寄り添うためには、さらに地域の特色を理解して地域に密着するとともに、一つひとつのお店がお客さま一人ひとりに向き合っていくことがますます重要になっています。それには、企業としてのパーパス(存在意義)を高め、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」というグループ理念を実現するためのひたむきな努力が求められます。

その一環として、ローソンはこのたび国連グローバル・コンパクトに署名し、「人権」「環境」「労働

* CSO=チーフ・サステナビリティ・オフィサー:最高サステナビリティ責任者

「腐敗防止」からなる4分野10原則を支持・実践することを宣言しました。これはSDGsへの貢献に直接つながる取り組みです。そして、SDGsへの貢献を体現しているのは全国各地のお店とそのお店を支えるFC加盟店オーナーさん、店長さん、そして約18万人のクルーさんです。それぞれのお店では、マチの役に立ちたいという強い想いのもと、日々自ら率先してアクションを起こしています。

今後もお客さま、マチ、地球のために何ができるかを、FC加盟店の皆さん、クルーの皆さん、そしてグループの従業員が丸となって真剣に考え、新しい生活様式に合わせた「新・マチのほっとステーション」への進化にチャレンジしてまいります。

●Lawson Blue Challenge 2050!に向けて

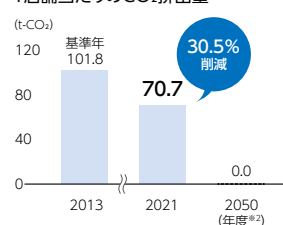
ローソングループは、当社の創業50周年に当たる2025年及びSDGsの目標年である2030年をターゲットに、社会・環境面に関わる目標(KPI)を策定し、達成に向けて取り組んでいます。さらに長期目標として環境ビジョン「Lawson Blue Challenge 2050!」を策定しました。今後も、SDGsが目指す姿に貢献すべく環境課題に対応した取り組みを進め、2025年、2030年及び2050年の目標(KPI)の達成に向けてチャレンジしていきます。

2025年・2030年・2050年目標 (KPI)

	CO ₂ 排出量削減	容器包装プラスチック削減*	食品ロス削減
2025年 創業50周年	1店舗当たり 2013年度対比 15% 削減	2017年度対比 15% 削減	1店舗当たり 2018年度対比 25% 削減
2030年 SDGs目標年	50% 削減	30% 削減	50% 削減
2050年 環境ビジョン	100% 削減	オリジナル商品の容器包装 環境配慮型素材 100% 使用	100% 削減

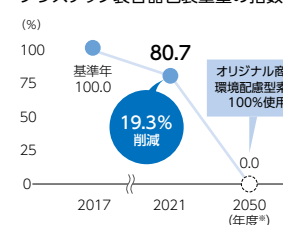
* プラスチックについては、2030年度にプラスチック製レジ袋100%削減の目標もあります

1店舗当たりのCO₂排出量*1



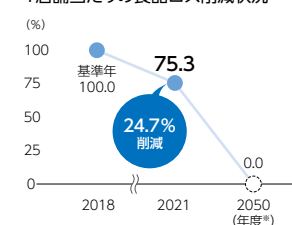
*1 CO₂排出量は(電気事業者別排出係数一覧(代替値))で試算
*2 行政年度に合わせて月1日から翌年3月31日で算定

プラスチック製容器包装重量の指数



* 当社事業年度(3月から翌年2月)で算定

1店舗当たりの食品ロス削減状況



* 当社事業年度(3月から翌年2月)で算定

●イニシアチブへの参画

TCFDへの賛同

2020年4月に「TCFD(気候関連財務情報開示タスクフォース)」に賛同しました。激化する気候変動問題に対応するため、気候に関連するリスクと機会を分析し、事業戦略への影響を把握して対策を検討するとともに、積極的な情報開示に努めています。



国連グローバル・コンパクトへの署名

ローソンは、国連グローバル・コンパクトに署名し、「人権」「環境」「労働」「腐敗防止」からなる4分野10原則を支持・実践することで、持続可能な社会の発展に貢献してまいります。

ローソンのグループ理念のもと、お客さま、マチ、地球のために何ができるかを真剣に考え、環境や社会における中長期課題の解決に積極的にチャレンジしてまいります。

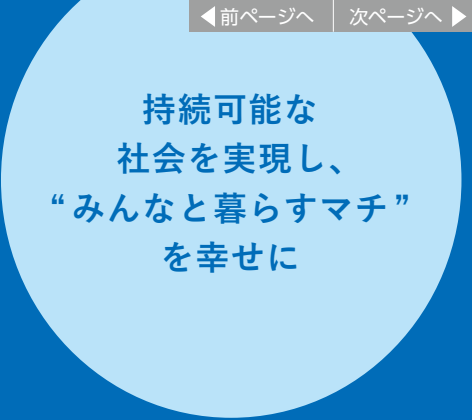


「SBT (Science Based Targets) 認定」取得に向け、コミットメントレターを提出

気候変動対策への取り組みを加速させるため、ローソングループの温室効果ガス削減目標が、パリ協定に整合しているとの認定を受ける「SBT認定」の取得を目指し、2022年6月にコミットメントレターを提出しました。脱炭素社会を実現するため、より高い目標を掲げてチャレンジを続けてまいります。また、事業活動における気候変動リスクの低減と機会の獲得につなげてまいります。

ローソンにおける重点課題と主な取り組み

事業方針の「3つの約束」をもとに、当社のバリューチェーンにおける取り組みについて、社会課題・情勢などに鑑み、重点課題を6つに分類しています。
 小売業にとって最も重要な安全・安心、社会インフラとしての取り組みを強調し、お客さま起点で決定しました。
 また、2021年度から主要グループ企業も重点課題を特定し、目標 (KPI) を立てました。
 ローソングループ一丸となって社会・環境課題の解決に向けて取り組んでまいります。
 ※ 主な取り組み・サービスについては、すでに完了したものは外し、新たなものを追加するなど、改廃しています



事業方針	対応するSDGs目標	重点課題 (マテリアリティ)	主な取り組み・サービス* (一例)
<p>P12-15</p>		安全・安心と社会・環境に配慮した 圧倒的な高付加価値商品・ サービスの提供	<ul style="list-style-type: none"> 高付加価値のプライベートブランド (PB) 商品の提供 まちかど厨房の展開 地産地消商品の企画・開発、国産食材の積極的な活用 社会・環境に配慮した商品の開発・販売 お客さまの声に応じた商品・サービスの開発 社会 (人権等)・環境に配慮したサプライチェーンの構築・運用 取引先との公平公正な取引の実施
<p>P16-21</p>		商品や店舗を通じて すべての人の健康増進を支援 働きやすく、 働きがいのある環境の提供 子どもの成長と 女性・高齢者の活躍への支援	<ul style="list-style-type: none"> 10のテーマに基づいた健康に配慮した商品の開発 医薬品を販売する体制づくり 自治体との健康づくりの連携推進 さまざまな人が利用しやすく働きやすい店舗環境の整備 店舗クルーの育成、定着促進 加盟店オーナーサポート制度の継続 子どもたちの未来のための募金の推進 子どもたちの学習を支援する環境づくり 食品等の支援を必要とする施設等への商品寄贈
<p>P22-28</p>		社会インフラの提供による 地域社会との共生 脱炭素社会への持続可能な 環境保全活動	<ul style="list-style-type: none"> 移動販売、デリバリーサービスの拡大 自治体との包括協定等の締結・連携の推進 災害時の国・自治体と連携した被災地支援 店舗・オフィスの省エネ化の推進 再生可能エネルギーの活用・拡大 売り切り・量り売り・消費期限の長い商品の開発等の推進 容器包装及び販促資材等のプラ使用量の削減 生物多様性に配慮した持続可能な資源の利用

Contents (目次)

マンガでわかる！ローソンとSDGs — P1-P3, P29

TOP MESSAGE — P4

Lawson Blue Challenge 2050! に向けて
 イニシアチブへの参画 — P5

重点課題と主な取り組み — P6-P7

ハイライト
 2021年度加盟店 SDGs 表彰 — P8-P11

圧倒的な美味しさ — P12-P15

いつもの商品・サービスに
 あっと驚くような発見を — P16-P21

人への優しさ — P16-P21

お客さまも、働いている人も
 うれしくなる場所を目指して — P16-P21

地球(マチ)への優しさ — P22-P28

地球(マチ)と共生する
 新時代のお店づくりを — P22-P28

Highlight

「マチを幸せにする」ための取り組みが全国各地のお店に広がっています。

グループ理念・事業方針「3つの約束」は、SDGsへの貢献であるとともにマチの幸せにつながります。全国各地のお店で取り組んでいる「マチを幸せにする活動」事例を募集し、「2021年度加盟店SDGs表彰」を行いました。受賞した10店舗の取り組みをご紹介します。



今後も地域のお客さまに喜んでいただけるお店をつくらしていきたい



道東支店 北見ひかり野店
オーナー 中橋 一喜さん

5 ジェンダー平等を 実現しよう 女性の登用で 市からコンビニ初の認定！

店長・リーダー・クルー・ファンタジスタに積極的に女性を登用し、北見市から「きたみワーク・ライフ・バランス認定事業所制度」の認定を受けました。販売期限に近い商品の値引き販売も女性からの提案で実現しました。洗剤などの詰め替え用パックの回収や障がい者の就労支援で段ボールや空き缶の回収協力も実施しています。



札幌北支店 羊ヶ丘展望台前店
MO(マネジメントオーナー) 松岡 直樹さん

8 働きがいや 経済成長も 障がい者雇用を通じた 職業生活の自立を支援

障がい者の職業生活自立を支援するため、コミュニケーションに障がいのある方を雇用しています。得意な仕事や良いところを見つけることを重視する一方、苦しい仕事に対する向き合い方も教育しています。一緒に働く従業員の受容力が高まり、褒める・認める・感謝する文化が醸成され、結果的に定着率の改善にも寄与しています。



障がい者の支援が
お店により影響を与えています



地域貢献を目指し
取り組んできた
活動が認められ、
よかったです

埼玉北支店 深谷榛沢新田店
オーナー 石丸 健さん

11 住み続けたいまちづくりを 社会福祉協議会と連携し、 移動販売を通じて 地域の生活を支援



社会福祉協議会と連携を取り、見守りも兼ねて地域に密着した移動販売を開始。高齢の方を中心に地域の住民の方も利用してくださっています。店舗よりもお客さまとのコミュニケーションが密に取れるため、ニーズを知ることができています。また、新型コロナウイルス感染症で自宅療養の方に弁当の宅配も実施しています。

埼玉東支店 越谷大間野町二丁目店
オーナー 市川 憲哉さん

8 働きがいや 経済成長も 障がい者の職業訓練で 心のバリアフリーを実現

障がい者雇用促進のために障がい者の職業訓練を実施。一人ひとりの個性と向き合い、車椅子の方はレジ、ほかの方は品出し・FF作成など、オリジナルのワークスケジュールを組んでいます。素晴らしい笑顔での接客、正確な品出しなど、今では頼りになる存在です。彼らと一緒に働くことでクルーのホスピタリティ精神も高まっています。



一緒に作業して私たちが
それぞれの「個性」と向き合い、
成長できました



今後もコミュニティ活動に
積極的に参加し、
地域の活性化に
貢献していきたい



愛知南支店 東浦於大公園前店
オーナー 松谷 洋二さん 店長 西井 武志さん(写真)

11 住み続けたいまちづくりを 認知症サポーター養成講座の 受講などさまざまな活動に参加



常連のお客さまに高齢の方が多く、認知症に対して正しい知識と理解を身につけるためにシフトを調整して合計10名が認知症サポーター養成講座を受講しました。お客さまとの会話が増え、安心してご利用いただけるお店づくりができました。その他、職場体験の受け入れや店舗周辺の清掃などさまざまな活動に取り組んでいます。

Highlight

広島東支店 三原皆実店
オーナー 坂元 徹さん



今すぐ自分たちでできることから
始めようと思い、取り組みました

12 食品ロス削減と 売上アップのため 値引き販売を実施

食品ロス問題が叫ばれている昨今、自分たちでできることは何かと考え、経営する全店で値引き販売に取り組んでいます。各カテゴリと価格帯ごと、時間帯ごとに細かく値引きルールを決め、手書きの告知物を掲出してお客さまにご案内しています。クルー全員にオペレーションを覚えてもらうのに時間がかかりましたが、食品ロスの削減はもちろん、品揃え拡大と売上アップにもつながりました。



10年にわたり
お届け先の笑顔を楽しみに、
やりがいを感じながら訪問しています



山口支店 山陽小野田殖生店
MO 古豊 和恵さん MO代理 吉村 公明さん(写真)

11 地域の老人ホームと連携し、 毎週、訪問販売を実施



地域から求められる役割を果たすべく、2つの老人ホームに訪問販売を実施しています。毎週、笑顔で楽しみに待っていてくれる入居者の皆さんを見てやりがいを感じています。一人ひとりが要望される商品の用意や体の不自由な方への配慮など苦労した面もありますが、店舗内での業務にも活かせる大切な経験にもなっています。

香川支店 高松番町三丁目店ほか経営5店舗
オーナー 和氣 恵美子さん



小学生から
感謝のお手紙をいただき、
従業員一同、大変励みになりました

12 マチカフェの牛乳パックを 切って洗って近隣小学校へ寄付

環境貢献につながる活動がないかと考え、経営する5店舗でマチカフェの牛乳パックを切って洗って保管し、近隣の小学校に寄付する活動を始めました。小学校では牛乳パックを校内のトイレトーパーに交換しているそうです。小学校の先生が店舗に訪れ感謝を述べられ、子どもたちからも心温まる寄せ書きをいただきました。



今後も地域の方々の
お役に立てるように
店舗従業員とがんばっていきます

愛媛東支店 西条ひうち店
オーナー 藤田 友明さん

11 移動販売を活用して 地域防犯の声かけを実施

警察署からの依頼を受け、移動販売の際に防犯・交通安全・詐欺防止などの声かけを実施しています。車の外部スピーカーで防犯への注意を促す自動音声を流し、買い物に来られた方には反射板や防犯チラシを渡ししながら一人ひとり声かけています。お客さまとの会話のきっかけになり、地域の住民の方の意識向上にもつながっています。

愛媛西支店 松山余戸東五丁目店
MO 藤崎 博司さん

11 チェーンの垣根を超えて 地域行政と連携した 防犯活動を推進

防犯のため
垣根を超えて連携し、
「安全・安心の愛媛づくり」に
貢献したい



10年にわたり深夜営業店防犯協会連合会会長を務め、地域警察などと連携した防犯訓練の実施や防犯体制の点検、青少年の非行防止対策などに取り組んでいます。警察による店舗への立ち寄り警戒や防犯相談を行う「コンビニ担当警察官制度」を構築するなど、安全・安心なマチづくりと業界の健全な発展のために力を注いでいます。

今後もマチにやさしいお店、
お客さまから支持される
お店づくりに取り組んでいきます



圧倒的な
美味しさ

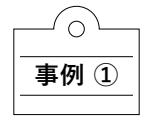
いつもの商品・サービスに あっと驚くような発見を



どんな取り組み？

ローソンは事業方針「3つの約束」の一つである「圧倒的な美味しさ」の実現を目指し、安全・安心と社会・環境に配慮した圧倒的な高付加価値商品とサービスを提供するため、さまざまな取り組みを行っています。時代とともに変化するお客さま、地域のニーズにマッチした店舗の実現を目指します。

- 高付加価値のプライベートブランド(PB)商品の提供
- まちかど厨房の展開
- 地産地消商品の企画・開発、国産食材の積極的な活用
- 社会・環境に配慮した商品の開発・販売
- お客さまの声に応じた商品・サービスの開発
- 社会(人権等)・環境に配慮したサプライチェーンの構築・運用
- 取引先との公平公正な取引の実施



地元食材を使った地産地消と地産外消で 地域の活性化を促しています



地元の食材を使った商品により、地産地消と地産外消を進め、地域との結びつきを深めています。さらに、地域の高校生と商品を共同開発する取り組みを通じて、マチ(地域)の活性化に努めています。

※ 下記掲載の3商品は現在販売しておりません

● 幸せあふれるいよかんシュー

愛媛県立小松高等学校と共同開発した愛媛県産いよかんの果汁100%使用の商品です。いよかん果汁入りのホイップクリームにいよかんソースを組み合わせ、シュー生地にはチョコをコーティング。いよかんの酸味により、甘すぎない味わいとなっています。



● 飛騨牛コロッケサンド

岐阜県が誇る飛騨牛を使用したコロッケを中具にしたサンドイッチです。コロッケのおいしさを引き立てるソースで仕上げました。



● 文部科学省の「青少年の体験活動推進企業表彰」で「審査委員会奨励賞」を受賞

2020年度に東北地方で学生の皆さんと商品の共同開発を6回行ったことが評価され、文部科学省が実施する令和3年度「青少年の体験活動推進企業表彰」において「審査委員会奨励賞」を受賞しました。これからも自治体などと連携しながら、地元食材を活用した商品を学生の皆さんと共同で開発する取り組みを継続していきます。



● 三農 ゴロっとりんごパン※

青森県立三本木農業高等学校と共同開発した商品です。全粒粉入りの生地に青森県産りんごのジャムとゴロっとした青森県産りんごのシロップ漬けをトッピングし、焼き上げたあとに蜂蜜をかけました。



※ この商品は左記表彰の対象商品です

外部の方の声

道産食材の消費拡大や道の魅力発信で北海道を元気に

2008年にローソンと包括連携協定を締結し、北海道の食の振興、地域の安全・安心の確保や防災時の支援、自然環境の保全など、さまざまな取り組みを実施してきました。最近では、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い消費に影響を受けた牛乳や乳製品の消費拡大のため、ローソンにおにぎりやスイーツなどを開発してもらい、その販売を通じて消費拡大だけでなく、道産食材の魅力の発信にも貢献いただきました。

北海道総合政策部
官民連携推進室
主査 西山 淳史さん



道産木材を使用したローソン札幌新発寒1条店

また、2022年7月には道産木材を使用した、コンビニエンスストアとして初の「HOKKAIDO WOOD BUILDING」登録店舗がオープン。誰もが気軽に立ち寄れる店舗で、多くの方に道産材に触れていただけるのは大変喜ばしいことです。今後も北海道が抱えるさまざまな地域課題を解決するため、北海道の地域振興や魅力の発信にお力添えをお願いします。

事例②

店内の厨房で調理したおいしい商品をご提供しています



「店内の厨房で調理したおいしい、安全・安心な商品をお客さまへお届けしたい」という思いから、2011年からまちかど厨房の導入を開始しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、身近なコンビニで店内調理したおいしい商品を購入したいというニーズが高まっており、導入店舗数は8,400店舗(8,457店舗:2022年4月時点)を突破しています。

さまざまな商品の中でも、店内厨房で厚切のロースカツを揚げた「三元豚の厚切りロースカツサンド」や、店で炊いたごはんを使用した「鶏のから揚げ弁当」(2022年8月30日発売)が特におすすめです。また、各地のご当地人気メニューを参考にした商品の発売にも取り組んでおり、2022年6月に発売した「ご当地秩父 わらじカツ丼」「ご当地秩父 わらじカツバーガー」などは大変ご好評いただきました。さらに、お客さまへのアンケート調査結果をもとに、原料の配合を見直すなど、「まちかど厨房」の弁当の中で販売数1位(2022年4月実績)の「海鮮かき揚げ丼」をはじめとした商品の改良にも取り組んでいます。



海鮮かき揚げ丼 鶏のから揚げ弁当 三元豚の厚切りロースカツサンド

TOPIC ゴーストレストラン

デリバリーで人気の高いメニューを参考に新たに開発した商品を、店内の厨房で調理してお届けする「ゴーストレストラン」の実証実験を東京都内の1店舗で開始し、現在3店舗(2022年6月末時点)で実施しています。ゴーストレストランの商品はUber Eatsなどで注文可能。すべての商品を注文後に調理するため、できたての商品をご提供することが可能です。同時に、朝食やランチ需要に合わせて調理を行っている店内厨房の空き時間の活用にもつながります。2023年2月末に関東圏100店舗、2025年度に全国1,000店舗への導入を視野に展開を進めていきます。



事例③

おいしさのベースには、品質と社会・環境への細やかな気配りがあります



● レインフォレスト・アライアンス認証農園産コーヒー豆の使用



店内淹れたてコーヒー「MACHI café (マチカフェ)」では、生産者がより持続可能な農法に従い、環境、社会、経済の厳しい基準を満たした農園に与えられるレインフォレスト・アライアンス認証農園産のコーヒー豆のみ*を使用しています。
* シングルオリジンシリーズ、カフェインレスシリーズは対象外

● 森を大切にする森林認証商品の取り扱い

オリジナル品のペーパーカップなどに、適切に管理された森林から生産された木材や、再生資源、その他管理された供給源の原材料を使用した「FSC® 認証製品」や「PEFC 認証製品」を採用しています。「適切な環境で作られた高品質な商品・サービス」というお客さまのご要望にお応えするため、今後も社会・環境に配慮した持続可能な商品の取り扱い、原材料の調達に取り組んでいきます。



事例④

コロナ禍による需要の変化に対応し、冷凍食品のメニューを拡大しました



新型コロナウイルス感染症による外出自粛の影響で、まとめ買いするシーンが増えたことから、長期間保存ができ、好きな時に手軽に食べられる冷凍食品のニーズが高まっています。ローソンでは、従来のストックニーズに対応する冷凍食品に加え、コンビニらしい便利な機能を加えた即食型の商品(約110種類)を展開しています。また、アフターコロナを見据えた新しいコンビニの実現に向けた商品改革の一環として、冷凍食品メニューのさらなる拡大にも取り組んでいきます。



TOPIC 「無印良品」商品の販売

2022年5月から約半年間で、関東・甲信越地区の約5,000店に「無印良品」の導入を開始し、全国への拡大を進めています。全国のローソン店舗に「無印良品」の商品を展開することで、全国津々浦々のお客さまのお役に立つ、新しい価値をお届けできると考えています。今後は、共同でのPB商品開発や、サービスの開発などを行い、さらに地域の皆さまのお役に立つ取り組みを拡大していきたいと考えています。



人への
優しさ

お客さまも、働いている人も うれしくなる場所を目指して



どんな取り組み？

ローソンは事業方針「3つの約束」の一つである「人への優しさ」の実現を目指し、すべての人の健康増進と活躍の支援をするとともに、さまざまな人が利用しやすく働きやすい店舗環境を提供するため、各種の取り組みを行っています。多様な価値観に基づく挑戦を促進し、社員の働きがいとマチの幸せを実現します。

- 10のテーマに基づいた健康に配慮した商品の開発
- 医薬品を販売する体制づくり
- 自治体との健康づくりの連携推進
- さまざまな人が利用しやすく働きやすい店舗環境の整備
- 店舗クルーの育成、定着促進
- 加盟店オーナーサポート制度の継続
- 子どもたちの未来のための募金の推進
- 子どもたちの学習を支援する環境づくり
- 食品等の支援を必要とする施設等への商品寄贈

アスリート社員インタビュー ～さまざまな人が活躍できる環境づくり～

ローソンは、「私たちは“みんなと暮らすマチ”を幸せにします。」というグループ理念のもと、ダイバーシティを推進し、性別・国籍・年齢・障がいの有無等を問わず、一人ひとりが活躍できる環境を目指しています。そのために、社長をトップにダイバーシティ推進担当役員を配置し、必要な制度設計・運用・登用などを行っています。その一環でアスリートを採用し、世界での活躍を目指す選手たちを応援しています。



高松 佑圭
パラ陸上競技
T38（脳性まひ）クラス
100m、200m、400m
東京2020パラリンピック
4×100ユニバーサルリレー
銅メダル



川原 凜
車椅子バスケットボール
1.5クラス
東京2020パラリンピック
銀メダル

ローソンの応援が力になっています

中学2年生の時に、親にすすめられたことがきっかけで陸上を始めました。メインの種目は400mですが、今年は100m、200mを中心に取り組んでいます。東京パラリンピック後に、スピードを重視した練習を行ったことで、100m、200mともに自己ベストを更新することができました。今後は、そのスピードを400mにも活かしていきたいと考えています。



ローソンの
うれしいポイントは
広いイートインスペースと
ウチカフェスイーツ！

ローソンに所属する前は、別の会社で働いており、練習時間の確保が一番の課題でしたが、今は練習時間が増え、充実した環境で練習できています。また、試合の際は遠方からも社員の皆さんが応援に来てくださるので、とても力になっています。今後の目標としては、まず来年のアジア大会、世界選手権に出場することです。そして、2年後のパリパリリンピックに出場できるようにがんばります。

全力でのサポートに感謝しています

高校生のころに車椅子バスケットボールに出会い、より成長できる環境を求めて、高校卒業後に現在のチームに移籍しました。その後、21歳から日本代表入り、昨年の東京パラリンピックでは銀メダルを獲得することができました。車椅子バスケットの魅力は、車椅子同士の激しい接触や、障がいの重さによって各選手に持ち点が設定され、コート上の選手の持ち点の合計は14点以内でなければならないというルールによって、障がいの軽い選手も、重い選手も平等に試合に出ることができる点です。ローソンに所属してからは、練習時間が十分に確保できるようになったり、社員の方に応援に来ていただいたりと全力でサポートしていただいております。現在は、2年後のパリパラリンピックでのメダル獲得を目標に、個人としてもチーム全体としても意識して練習しています。



ローソンの
やさしいポイントは
車椅子用の駐車枠が多く、
トイレが広い！

事例 ①

障がいのある方を支援する 取り組みを行っています



2022年2月に障がいのある方への支援の一環として、店内の淹れたてコーヒー「MACHI café (マチカフェ)」のカップデザインに、佐賀県の福祉施設 PICFA (ピクファ) の障がいのあるアーティストが描いたデザインを採用しました(現在展開終了)。カップを通じて福祉について少しでも興味をもってほしいという、社内公募から誕生した企画です。

事例 ②

聴覚障がいがある方が買い物をしやすくなるよう 「耳マーク」を表示した資材を展開します



聴覚障がいのある方の多くは、相手の身振りや口の動きを見て会話を理解されています。しかしながらコロナ禍でマスク着用が日常的になったいま、レジ袋や割り箸が必要かどうか聞かれても何を言われているかわからない状況にあり、店舗でのコミュニケーションに悩まれています。そこで、2022年8月末から「耳マーク」*を表示した資材を全国の店舗で展開し、聴覚障がいのある方が楽しく買い物ができるよう取り組みます。



*「耳マーク」: 聞こえが不自由なことを表わすと同時に、聞こえない人、聞こえにくい人への配慮を表わすマーク (一般社団法人全日本難聴者・中途失聴者団体連合会)

事例 ③

FC加盟店からの問い合わせ窓口を一本化し、 働きやすい店舗の整備をサポートします



FC加盟店が安心して店舗を運営できるよう、年間50万件のさまざまな問い合わせに24時間体制でサポートしています。これまではオペレーション全般や冷蔵機器の故障など、各種のサポート窓口が分かれていましたが、2022年4月から一本化しさらに利用しやすくなりました。頻度の高い問い合わせについては「よくある問い合わせ解決シート」として、毎月全店舗に配布しています。さらに窓口の応対におきましては、ていねいさ、正確さ、スピーディーさなどの品質を高めることに努めており、その結果、2021年、世界水準の評価団体「HDI JAPAN」が行うコールセンターの応対品質調査において、ローソンFC加盟店の問い合わせ窓口がコンビニエンスストア業界初となる三ツ星を獲得しました。



事例 ④

摂りたいニーズに応える。おいしくて 健康に配慮した商品をご提供しています



コロナ禍において、お客さまの健康への意識が変化し、カロリーや糖質をオフするだけでなく、健康維持を目的に積極的にたんぱく質や食物繊維などを摂取したいというニーズも高まっています。ローソンでは、そのニーズに対応し、たんぱく質や食物繊維が摂れる健康関連商品を複数のカテゴリーで販売しています。また、自社で定める健康に関する栄養素のうち、どの栄養素が含まれているかが一目でわかるようにパッケージデザインを変更しています。



1/2日分の緑黄色野菜とたんぱく質が摂れるガーリックマトソースのチキンステーキ丼



国産もち麦入りピビンパおにぎり



アーモンドチョコレート (イヌリン使用) 40g



市場ニーズに合わせ、健康10テーマを設定

- ① 野菜や果物を摂りたい
 - ② たんぱく質を摂りたい
 - ③ 食物繊維を摂りたい
 - ④ 保健機能食品等を摂りたい
 - ⑤ 糖質コントロール
 - ⑥ 塩分コントロール
 - ⑦ カロリーコントロール
 - ⑧ 脂質コントロール
 - ⑨ 善玉菌を摂りたい
 - ⑩ 質の高い睡眠をとろう
- ①～⑧ 国の指標、医療研究上の指標に基づいた項目
- ⑨～⑩ 将来の健康トレンドを見据え、チャレンジで取り組む項目

事例 ⑤

医薬品の販売を強化し、 マチの健康を支えています



ローソンは高齢化社会におけるお客さまの利便性向上と国民医療費の抑制に貢献すべく、医薬品の販売に注力しています。2003年から調剤薬局併設型店舗の開発に取り組み、2022年5月末時点で50店舗を展開しています。また、セルフメディケーション推進の観点から全国各地の調剤薬局・ドラッグストアチェーンとの提携を進めています。OTC 医薬品(市販薬)を取り扱う店舗の総数は、調剤薬局併設型店舗を含め、2022年5月末時点で282店舗です。さらに、2021年2月からはOTC 医薬品の取り扱いを日本のUber Eatsで初めて開始。風邪薬や目薬、胃腸薬などの第2類医薬品と第3類医薬品を約60種類取り扱っています。

事例⑥

お客さまとともに、募金活動30周年 子どもたちの未来を応援しています



ローソンは、1992年にコンビニエンスストアで初めて店頭で募金箱を設置し、2022年9月で30周年を迎えます。「子どもたちの未来のために」をコンセプトに社会貢献活動を行い、「ローソングループ“マチの幸せ”募金」では、現在3つの団体への寄付と、活動の支援をしています。また、新型コロナウイルス感染症対策などの活動支援、地震や豪雨災害への支援など緊急を要する募金受付も随時行っています。

「ローソングループ“マチの幸せ”募金」の寄付先

- ローソン緑の募金
(寄付先:公益社団法人 国土緑化推進機構)
- 夢を応援基金(ひとり親家庭支援奨学金制度)
(寄付先:一般財団法人 全国母子寡婦福祉団体協議会)
- 「夢の教室」募金
(寄付先:公益財団法人 日本サッカー協会)



「ローソン緑の募金」を活用した事業



2022年3月16日

東京都調布市立北ノ台小学校 校長(当時)
箱崎 高之先生

「子どもたちに自然の変化を感じてほしい」との思いから「ローソン緑の募金」の助成を申請しました。マチの造園会社の協力で、桜3本や水仙などの花を植え、子どもたちが集うシンボルとして、栽培委員会でお世話をしています。この桜や水仙などは、普段はもちろん、卒業式や入学式の門出でも子どもたちを見守ってくれています。

「『夢の教室』募金」を活用した授業



2021年6月18日

東京都品川区立八潮学園 5学年主任(当時)
熊坂 佳太郎先生

夢先生からの「どんな人になりたいか?」という問いは、子どもたちにとってパラダイムシフトとなったように感じます。子どもたちは、「みんなの気持ちがわかるやさしい人」「困っている人を助ける人」など、思い描く未来の自分と対面し、「自分」を表現していました。理想の自分の姿から「夢」は生まれるのだということを学ぶことができました。

TOPIC ウクライナ支援

2022年には、ウクライナでの紛争により、ウクライナ国内及びウクライナから他国へ避難を余儀なくされている方々への支援のため、「ウクライナ人道危機救援募金」と、「ウクライナ緊急支援募金」を受け付けました。お客さまからお寄せいただいた募金は、総額で1億9,700万5,568円にのびりました。



事例⑦

子どもたちの学びを支援しています (スチューデントシティ/企業インターンワーク/院内学級特別授業)



子どもたちが健やかに育つ環境をつくるお手伝いの一つとして、仙台市の「スチューデントシティ^{※1}」にローソンの体験店舗を設置し、小学生が社会と自分との関わり、経済の仕組み、お金とは何か、仕事とは何かなどを学び、体験を通じて社会的自立力を育む教育プログラムを提供しています。

それに加えて、2017年度からは中学生と高校生が授業を通じて企業のインターンとして課題解決に取り組む「企業インターンワーク^{※2}」に協力しています。2021年度は27校の中高生約1,100人の学びを支援しました。また、2021年11月から2022年2月にかけて、3地区の院内学級^{※3}で学んでいる児童・生徒さん計16名に対してオンラインで特別授業を行いました。授業ではクイズを交えながら、コンビニの仕組みや商品の工夫、SDGsの取り組みについて紹介しました。コロナ禍で課外活動ができない入院中のお子さんに、社会に触れる機会を提供することを目的として実施しています。



スチューデントシティ

※1 公益社団法人ジュニア・アチーブメント日本(世界最大の経済教育団体であるジュニア・アチーブメントの日本本部)の登録商標
※2 株式会社トゥワイズ・リサーチ・インスティテュートが運営 ※3 入院中の児童・生徒さんのために、病院内に設置される特別支援学級

事例⑧

子どもたちの笑顔のため、 動画3本を制作しました



コロナ禍で課外活動や職場体験の機会が減っているなか、子どもたちの笑顔を増やしたいという想いで3本の動画を制作しました。学校などで教材としてもご利用いただけます。



〈ローソンでSDGsを学ぼう!〉 〈ローソンのお仕事体験!〉 〈からあげクン工場見学!〉



▲動画はこちらから

事例⑨

ご寄付いただいた図書を小中学校に贈呈 子どもたちの学習を支援しています



中国・大連ローソンは、大連市希望工程[※]弁公室と協働して店舗に図書寄付用のボックスを設置しています。店舗や従業員、メディアを通じて寄付活動を広く告知し、お客さまの家庭に眠っている本などをご寄付いただいています。寄付された方にはポイントを進呈し、ポイントが貯まるとオリジナル商品を差し上げています。集まった図書は大連ローソンのおにぎりやデザートと一緒に大連周辺の生活困窮地区の小中学校へ寄付します。また、寄付先の学校には「羅森(ローソン)愛心図書室」という図書コーナーも設置しています。



※ 中国の貧困児童教育支援プロジェクト

地球(マチ)への優しさ

地球(マチ)と共生する新時代のお店づくりを



どんな取り組み？

ローソンは事業方針「3つの約束」の一つである「地球(マチ)への優しさ」の実現を目指し、社会インフラの提供による地域社会との共生とともに、脱炭素社会の実現に向けた持続可能な環境保全活動に取り組んでいます。SDGsが目指す姿に貢献するため、CO₂排出量、食品ロス、容器包装・レジ袋のプラスチックの削減などを進め、2025年、2030年及び2050年の目標(KPI)の達成を目指しています。

- 移動販売、デリバリーサービスの拡大
- 自治体との包括協定等の締結・連携の推進
- 災害時の国・自治体と連携した被災地支援
- 店舗・オフィスの省エネ化の推進
- 再生可能エネルギーの活用・拡大
- 売り切り・量り売り・消費期限の長い商品の開発等の推進
- 容器包装及び販促資材等のプラ使用量の削減
- 生物多様性に配慮した持続可能な資源の利用
- 物流の効率化と環境対応トラックへの切替の推進

事例 ①

限りある資源の使用量を削減するためにさまざまな取り組みを行っています



● 量り売り

ナチュラルローソンを中心に洗剤やシャンプーなど日用品や、ドライフルーツやナッツなどの食品を必要な時に必要な量だけご購入いただける量り売りを実施しています。現在、プラスチック容器での販売と比較し、およそ79%のプラスチック使用量削減につながっています(2021年10月実績)。



● アップサイクル商品

これまでさまざまな理由から捨てざるを得なかった、未開封・未使用の製品、キズや変形のために販売できない規格外品をアップサイクル[®]した製品の販売を行っています。



※ 捨てられる予定だったものを新しいものに生まれ変わらせ、付加価値を高めること

規格外となったフルーツを加工して作ったお茶

● 穴開きのプラスチック製スプーン・フォーク

プラスチック資源循環促進法の施行に合わせ、2022年4月1日から順次、持ち手部分に穴を開け、長さを短くするなどプラスチック使用量を削減したスプーンとフォークを導入しています。これにより年間で約67トンのプラスチック使用量を削減できる見込みです。併せて、木製スプーンも今後店舗が選択できるように一部エリアで試験的に採用しています。



社員の声

株式会社ローソン
商品本部 FF・日配食品部 マーチャンダイザー 吉岡 圭太

店内淹れたてコーヒー「MACHI café(マチカフェ)」では、社会や環境への配慮の一環として、2011年の導入当初からお客さまがタンブラーなどご自身の容器を持参されることで通常の価格より10円お得な価格で提供^{*}しています。2019年からはアイスメニューの各サイズのカップを紙素材へ順次切り替えました。また、アイスカップ用フタ(リッド)はストローを使用しないで飲めるものに、マドラーは木製に変更しました。これらの取り組みにより、年間約2,165トンのプラスチックが削減可能となりました。2022年度にはアイスカップ用フタのプラスチック使用量を減らすほか、ストローの包装も紙製化していく予定です。今後も使用感などのお客さまにとっての価値や利便性に配慮しつつ、さらに省資源化を進めるなど、社会や環境にも貢献する商品の開発にチャレンジしていきます。



※ セルフマジン店舗は対象外です

TOPIC 清掃ボランティア活動

ローソンは、広島県が海洋プラスチックごみゼロ宣言を目指し設立した「GREEN SEA 瀬戸内ひろしま・プラットフォーム(略称「GSHIP」(ジーシップ))」に参画しています。その活動の一環として、2021年11月7日、広島県廿日市市の宮島包ヶ浦自然公園で清掃ボランティア活動を行いました。当日は、FC加盟店オーナー及び従業員、ローソン本部社員の計23名が参加し、砂浜に打ち上げられたビニール類など、ほかの参画企業含め総勢126人で総重量222.3kgの海洋ごみを回収しました。



事例②

省エネ機器等の導入で、地球（マチ）にやさしいお店を目指しています



● 省エネ10か条

店舗の電気使用量を削減するため、「省エネ10か条」を定め、各店舗でエアコンのフィルター清掃、温度調整などに取り組んでいます。

- ① 週1回、要冷機器や空調機器のフィルター清掃
- ② エアコン設定温度 夏：27℃、冬：18℃、中間期：OFF
- ③ 商品搬入出時に、ウォークイン・業務用冷蔵冷凍庫の扉の開閉時間を削減
- ④ 要冷機器・空調機器の室外機周辺の整理整頓
- ⑤ 夏場に凍らせて販売する飲料商品などは冷蔵保管してから補充
- ⑥ ホット飲料は常温で保管している商品を補充
- ⑦ 業務用冷蔵冷凍庫内への商品の詰め込みすぎに注意
- ⑧ 不在時のバックルームや倉庫の照明とエアコンOFF
- ⑨ オープンケースのエアーカーテンを守った商品陳列
- ⑩ 業務用冷蔵冷凍庫の扉の開閉回数の抑制

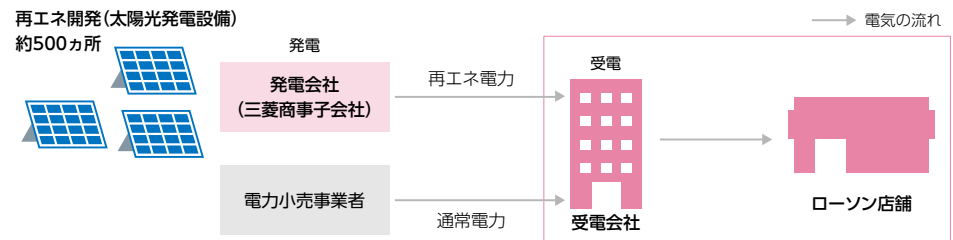
● 省エネ機器の導入

約4,600店舗（2022年2月末時点）に、フロン類と比較して地球温暖化への影響が低いCO₂を冷媒に利用することで、温室効果ガス排出量を大幅に減少できる「ノンフロン（CO₂冷媒）冷凍・冷蔵システム」を設置し、店舗の省エネ化を進めています。



● オフサイト PPA[※]

※ 遠隔地に太陽光発電設備を設置し、発電した再生エネルギーを需要家設備へ送電する手法



約2,000店舗の屋根に太陽光発電設備を設置。さらに再生エネルギー導入を強化

三菱商事株式会社と協業し、2022年度以降順次、店舗の敷地外の太陽光発電設備から再生可能エネルギーをローソン約3,600店舗向けに供給していく計画です。太陽光発電設備の規模は、一般家庭の約9,000世帯分の電力使用量に相当する約45MWの見込みで、これをCO₂に換算すると、年間約19,000tを削減できる見込みです。

事例③

サプライチェーン全体でのCO₂排出量削減に取り組んでいます



● 商品配送における実験的な取り組み

全国に張り巡らせた物流網の効率化を図るとともに、環境負荷の低減を目指しています。2020年からはAIを活用した配送ダイヤを自動作成することでダイヤの効率化を図っています。このほか、燃料電池トラックや電気トラックの実証実験を実施するなど、新技術の実験・検証を進め、CO₂削減に取り組んでいます。



燃料電池トラック

● サプライチェーンCO₂排出量

ローソンの事業活動による環境への負荷は、原材料の調達から商品の製造、物流、販売、廃棄、リサイクルに至るまでのサプライチェーンの各段階に及びます。

そこで、米飯類の製造工場や、配送センターなどのお取引先アンケートにご協力いただき、CO₂排出量を把握する取り組みを行っています。各段階における環境影響を把握し、低減するための課題を検討して、省エネルギー・省資源・廃棄物削減の取り組みを進めています。

2021年度サプライチェーンCO₂排出量[※]

カテゴリ	内容	排出量 (千t-CO ₂)
Scope1 (直接排出)	社用車のガソリン	4.2
Scope2 (間接排出)	本社・エリア・支店・店舗の電力	1,027.5
Scope3 (その他の間接排出)	カテゴリ 1 仕入れた原材料 (PB・NB 製品、レジ袋など)	4,010.5
	カテゴリ 2 建物、器具備品等、情報システムハードウェア	88.2
	カテゴリ 3 電力の調達に伴うエネルギー関連	146.9
	カテゴリ 4 配送センターのエネルギー消費	139.2
	カテゴリ 5 店内廃棄物、閉店・改装時の産業廃棄物	20.9
	カテゴリ 6 ローソン本部社員の出張	0.8
	カテゴリ 7 ローソン本部社員の通勤	1.5
カテゴリ 12 容器・割り箸・レジ袋の廃棄	22.7	
上記合計		5,462.3

※ ローソンのサプライチェーンすべてを網羅しているものではありません。Scope2は2020年度から店舗の電力を合算しています

事例④

リサイクルを進め、食品ロスを減らす取り組みをしています



● 値引き販売

2021年6月、消費期限が短く比較的食品ロスの発生リスクの高い商品の値引き額を、店舗ごとの状況に応じてAIが推奨する実証実験を開始。これまでは店舗ごとに値引き時間や額・対象商品を判断してきましたが、AIを活用することで、より簡易で、より効果的な値引き販売が可能になります。

● てまえどり

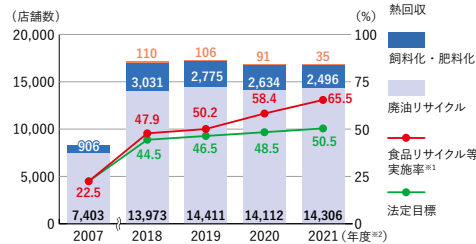
消費者庁、農林水産省、環境省の3省庁及び一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会と連携し「てまえどり」を実施しています。「てまえどり」とは、商品を購入後すぐに召し上がる予定のお客さまに、商品棚の“手前”にある商品から順番に“取り”、購入いただくことを促すことで、食品ロスの削減を目指す取り組みです。



● 売れ残り食品、食用油のリサイクル

店舗で発生した売れ残り食品は、食品リサイクル工場に運搬され、飼料製品に加工、出荷されます。また、フライヤーで使用した食用油も、石けんの原料や飼料などにリサイクルされていましたが、最近ではバイオマス燃料として発電所や車などにも利用されています。バイオジェット燃料への活用も進んでいるため、近い将来、からあげクンを揚げた油で飛行機が飛ぶかもしれません。

ローソングループ食品リサイクル等実施率及び実施店舗数の推移



※1 食品リサイクル等実施率は、(株)ローソン沖縄、(株)ローソン南九州、(株)ローソン高知を除いた数値です
 ※2 4月1日から翌年3月31日で算定しています

事例⑤

フードバンク等への商品寄贈を通じて、食事支援をしています



コロナ禍で困窮している学生や支援を必要とするご家庭に、楽しい時間を過ごしてもらいたいと考え、「一般社団法人全国フードバンク推進協議会」、「一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか」と連携し、おせち料理や、従来は余剰が出て廃棄となってしまったクリスマスケーキを寄贈しました。今後もこのような取り組みを継続し、食品の有効活用と食品ロス削減に取り組んでいきます。

外部の方の声

NPO法人フードバンクTAMA
理事 芝田 晴一郎さん



当法人は、食事を満足に取れない子どもたちへの支援をメインに、児童福祉施設や子ども食堂、ひとり親家庭などに無償で食品などをお届けしています。ローソンからはお菓子やカップ麺、日用品などを定期的に寄贈してもらい、大変ありがたく思っています。



NPO法人ゆめのめが運営する児童発達支援・放課後等デイサービス事業所への寄贈

昨年初めていただいた冷凍のから揚げには、支援先の子どもたちがとても喜んでくれました。また、一昨年にはクリスマスの時期にケーキを寄贈してもらっていますが、非常に好評で「ほんとうに素敵な時間を過ごせた」、「ホールのケーキを子どもたちと食べるのは初めて」といったお母さんたちから感謝のメッセージがたくさん寄せられました。私たちは今後も支援を必要としている側の声を聞いていながら、地域に密着した「顔の見える支援」をモットーに、子どもたちを取り巻く課題の解決に積極的に取り組んでいきます。ローソンにも引き続きの協力をぜひお願いいたします。

事例⑥

全国各地でフードドライブを実施しています



2022年6月に、各エリアと東京都内の本社で、フードドライブを実施しました。身近にできるSDGsの取り組みとして、各エリアと本社の従業員を対象に行ったものです。トータルで約3,000個の商品が集まり、エリアごとに寄贈したフードバンクなどを通じて、支援を必要とするひとり親家庭などの世帯や養護施設への提供などに活用されています。今後も、定期的にフードドライブを実施します。



TOPIC ホットミルクの半額販売

2021年12月31日から2日間、全国のローソン店舗で、新型コロナウイルス感染症拡大による需要回復の遅れや、年末年始で学校給食用の消費が減少する「牛乳」の消費拡大を応援するため、「ホットミルク」を通常価格の半額の65円(税込)で販売しました。ミルク缶マークを掲げるローソンとして、これからも牛乳の消費拡大を応援します。



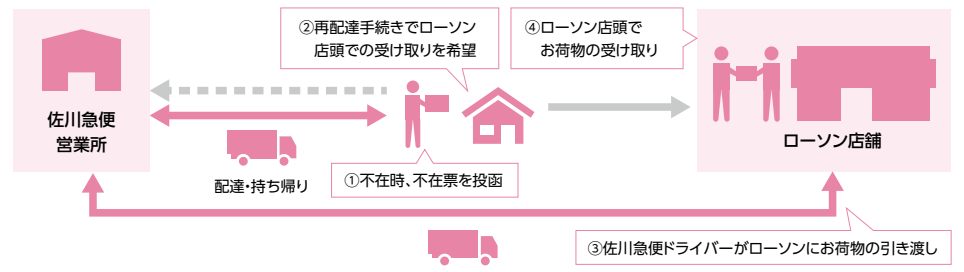
事例 ⑦

社会インフラの一部として、皆さんの生活を便利にするお手伝いをしています



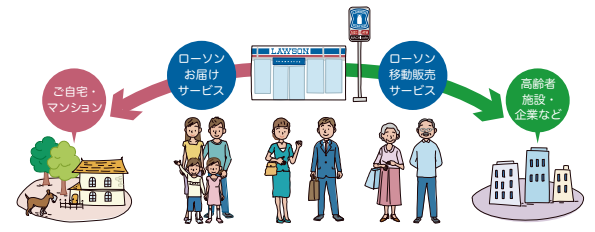
● 不在時受け取りサービス

佐川急便株式会社と連携し、不在再配達荷物の店頭受け取りサービスの実験を栃木、山梨、長崎、島根、山口の各県で行っています。これは、お客さま満足度の向上や、不在再配達に伴うドライバーへの負担軽減及びCO₂の削減を目的とした取り組みです。これまでの実証実験では、不在再配達荷物の店頭受け取りにより、不在再配達に伴う配達トラック台数が減少し、計0.48トンのCO₂削減につながりました。



● 移動販売車の展開

一部の店舗では、ご自宅にお届けする「ローソンお届けサービス」、高齢者施設や企業などへの「ローソン移動販売サービス」を実施し、皆さまにお買い物をする楽しみをお届けしています。この取り組みは2012年に開始し、現在34都道府県で102台の車両(2022年6月末時点)で展開しています。同時に、自治体などと連携し、買い物中の高齢者の方々へ声かけをする「見守りサービス」も行っています。



「子どもたちの笑顔」をテーマに、Ponta特別仕様のラッピングカーを創りました(1台のみ)

● 「セーフティステーション」活動への参加

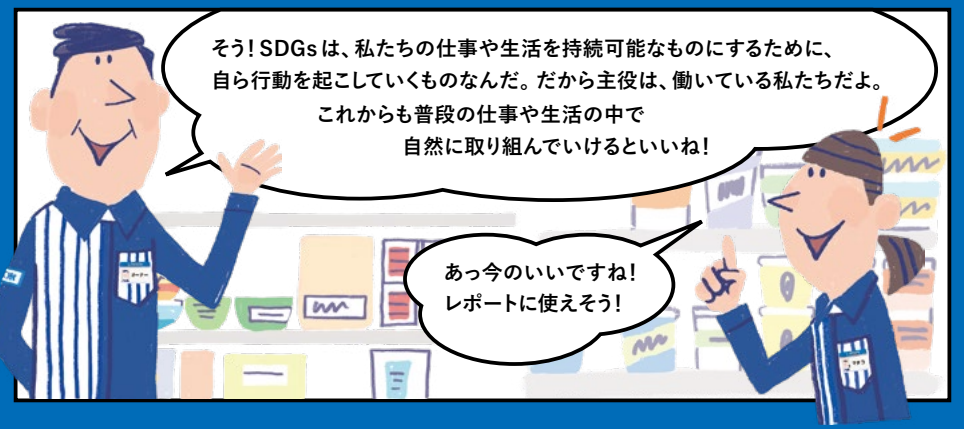
ローソングループは一般社団法人日本フランチャイズチェーン協会の「セーフティステーション」活動(SS活動)に積極的に参加し、安全・安心なまちづくりへの協力や青少年環境の健全化への取り組み等を推進しています。また、強盗や特殊詐欺防止の対策や、女性・子どもの駆け込み、高齢者の保護などへの対応も行っています。

2021年の対応状況*	
女性の駆け込み	1,340店舗 1,985回以上
子どもの駆け込み	715店舗 1,029回以上
高齢者保護	2,729店舗 5,009回以上
特殊詐欺(振り込め詐欺等)の抑止	3,078店舗
深夜時間の青少年帰宅促し	7,818店舗

※ 数値は2021年度SSアンケートリポートより抜粋



セーフティステーション店頭ポスター



ローソンのSDGsの活動はウェブサイトにも掲載していますぜひチェックしてみてください!

<https://www.lawson.co.jp/company/activity/>

